

第 22 回 第 2 次瀬戸市教育アクションプラン推進会議
議 事 録

日 時：令和 7 年 7 月 16 日（水）午後 3 時 00 分から 4 時 35 分まで

場 所：瀬戸市役所 4 階庁議室

出席者：（敬称略）

<会長>吉田 淳

<副会長>森 理恵

<委員>梶野 知洋、加藤 千春、加藤 中哉、木村 愛子、中島 なぎさ、丹羽 光成、林 裕美、福岡 明、水野 征子（50 音順）

<オブザーバー>川原 知佐栄（文化課長）、田口 浩一（経済文化部参事兼スポーツ課長）、杉江 圭司（コミュニティ推進課長）、井上 紀和（多様性協働課長）
戸田 律子（こども未来課長）、鈴木 雅喜（こども若者家庭センター長）

<事務局>加藤 正彦（教育長）、駒田 一幸（教育部長）、谷口 壘（教育政策課長）、豊田 幸一（教育政策課主幹）、松見 健一（学校教育課長）、加藤 淳（学校教育課主幹）、長谷川 武宏（学校教育課主幹）、吉村 きみ（図書館長）、松浦 慎造（教育政策課課長補佐兼企画補佐）、谷山 隼（教育政策課企画係長）、國松 一彰（教育政策課専門員兼指導主事）、奥村 祐麻（教育政策課施設係長）、峯藤 駿佑（教育政策課主任）

議事録：

1 会長あいさつ

吉田会長からあいさつがあった。

2 審議事項

令和 7 年度瀬戸市教育委員会事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書

（対象：令和 6 年度）（案）について

事務局から資料 2 に基づき説明。

会 長：委員からご意見を伺いたいと考えております。

委 員：「みらい」に関する情報発信について、二つお願いがあります。一つ目は、「みらい」と瀬戸市全体の教育との関わりを意識した情報発信をしていただきたいです。二つ目は、「みらい」での活動に関わった方々のそれぞれの学びや評価をお知らせいただきたいです。

一つ目について、「みらい」は地域の方々と連携して進める地域学習を基盤とした小中一貫教育プログラムで、「施設分離型小中一貫教育のモデル」となるものだと思っています。「みらい」での一つひとつの活動は、ある意味、これまで行ってきたものと大きな違いはないように思いますし、市内各校でも同じような活動が行われてきたように思います。しかし、新しい教科、新しい教育課程の下、直接この取組に関わる方々の意欲が倍增されることは間違いないでしょう。このことが大切ですし、ここに意義があるように思います。このようなことから、独自教科「みらい」の新設に大賛成であり、思い切り応援したいと思っています。

今、お話したように、「みらい」は「施設分離型小中一貫教育のモデル」になるとしますので、「みらい」と瀬戸市全体の教育との関わりを意識した情報発信をお願いしたいと思います。それは、「みらい」に関する情報に触れた市民が自分の地域の学校や地域連携について考えるきっかけになることが期待できるからです。

次に二つ目のお願いについてです。子どもたちのために、市民と連携した取組はキャリア教育を始め様々あります。どれも子どもたちや瀬戸市の将来にとって大切なことは間違いありません。しかし、これらは「子どもをダシにした大人のための取組」であるように思えてなりません。以前、キャリア教育推進協議会の場で、失礼を省みずに発言しました。それは、「職場体験は、働く悦びを、子どもたちに伝えることを忘れた大人のリハビリのように思える。」ということです。そして、この考えは今も変わっていません。独自教科「みらい」は、この教科に関わるすべての市民のためのものと言ってもいいのではないのでしょうか。

今回の点検評価報告書 77 ページ、基本施策 22 の意見提言で書いたことですが、私の住んでいる連区自治会のホームページに学校と連携した取組の報告が載ります。例えば 3 月に、小学校 5 年生の防災学習のまとめ報告会に参加したことや子どもたちとボッチャを楽しんだことなどが書いてありました。そして、同じ取組について、小学校のホームページに学校の立場での記事が載っています。おかげで、学校と地域が連携して取り組んだ活動について、学校及び地域の方々の学びや評価を知ることができました。これも地域連携の一つの姿だと思いました。

また、69 ページの基本施策 19 にある、「学びキャンパスせと」についての文章には、「学ぶ立場と教える立場のどちらも活かしあう」、そして、83 ページの用語解説には、「学び合い」という言葉が使われています。教える立場、教えられる立場、それぞれに学びがあることを教えてくれます。

そこで、独自教科「みらい」についても、一つひとつの取組に関わった方々の学びや評価、つまり、学び合いの様子をお知らせいただけたらと思っています。それは、学び合いの様子を知った市民一人ひとりが、自身の学びを自覚することで、立場や年齢等の違いに囚われない、互いに尊重しあう社会の実現につながると思うからです。

会 長：これは大変重要な観点ではないかと思っております。瀬戸市、あるいは瀬戸市の一部の学校の取組が特徴的であり、また、効果的であり、地域との連携が上手く推進されていくということは、大事な要素かと考えているところでございます。ありがとうございます。

委 員：モアスクールについて、支援員さんの中にはマイルールを強いる方がいらっしやいまして、ランドセルは一度仕舞ったら出してはいけないですとか、出すときにはお伺いを立てないといけないですとか。一方で、他の方はそんなことしなくて良いよと対応が異なっていて、人によってマイルールが色々あることから、子どもも結局その理由が分からず、支援員さんも色々お考えがあるのでしょうか、何か子どもにこういうふうにしなさいと言うのであれば、その理由をきちんと伝えてほしいですし、また、人によってマイルールを強いるというのは違うのではないかと思います。このようなことは子どもに良くないと思いますので、支援員の方のご協力や教育をお願いしたいと思います。

会 長：支援員さんをお願いをする、あるいはパーソナリティでしょうか、そういうものについて、なかなかチェックは難しいのではないかと思います。その辺りについて事務局はいかがでしょうか。

オブザーバー：こども未来課長です。貴重なご意見ありがとうございます。その具体的な内容、また、どこの場所でそういうことが起こったのかを後ほどお伺いできればと思います。

児童クラブでは、日々お子さんと接する中で、情操教育の面であったり、言葉遣いなど本来ならそういうところを含めて、安心できる居場所として支援員が対応していくべきところではあるのですが、保護者の方々から時々、放課後児童クラブで今日こういうことが起こりましたとか、放課後学級でこういうことがありましたというお話をいただいたりすることもあります。その都度、そういった事業所には、どういったことが行われているのか、経過と

してどういったことがあったのかなど事実を確認し、必要に応じて対応をしております。今後もより良い運営をしていくためにも、保護者及び利用者、また、地域の皆様から貴重なご意見をいただき、改善に努めていきたいと考えております。ありがとうございます。

会 長：支援員さんもそれぞれ個性をお持ちですから、そういう意味では一つの規範みたいなものが何らかの形であっても良いのではないかと思います。少しずつ修正していくしかないかないのではないのでしょうか。

委 員：先ほどのお話を聞いて、資格とまではいかないですが、支援員さんになる方たちに年 1 回でもいいので、研修があってもいいのではないかと思います。また、子どもたちの成長過程の中で、やってはいけないことで指導していただけるのだったら良いと思うのですが、自分自身の価値と合わないからそれは駄目だっていうのは違うのではないかと思います。

それから、PTA の役員さんたちとお話をするのですが、共働き世帯が増えてきて、なかなか町探検とかのボランティアさんが集まっています。地域の方に助けてもらっていいですかということを手伝ったりしているのですが、手伝ってくれるお母さん、お父さんたちがいないと、子どもたちが探検できる所も狭くなっていくので、どうやったらお母さんたち、お父さんたちに手伝ってもらえるのか、PTA の活動に参加していただけるのかということも課題なのかなと思ったりもしました。

会 長：ありがとうございます。ボランティアというものは、保護者や PTA だけじゃなくて、地域の方からもあって良いかなと思います。

委 員：保護者の方が学校の行事に関わるのは運動会だけとかになっていますが、学校から要望が出ている町探検や見守り当番など些細なボランティアもあります。子どもたちの普段の様子を見るには、すごく良い取組です。テトルで保護者の方に「ボランティアを募集しています。」と誘っていただいていると思うのですが、なかなか集まらないため、コミュニティ・スクールの方から個別に「手伝ってもらえませんか。」と連絡が来る状態です。できれば保護者の方に子どもたちの様子を見て欲しいという意味で、ボランティアに参加していただければありがたいと思います。

会 長：瀬戸市全体でのボランティア活動の推進というものも今後求められてくる

のではないかと思います。ありがとうございます。

委員：基礎基本の学力の習得及び教職員の教育力の向上というテーマを中心に書いたのですが、40年ほど前に自分が教員になった頃から、基本的学力の習得や教職員の教育力の向上というのは研究されていました。それでもまだこれが基本テーマになるということは、本当に何が一番良いのかというのが見つけられないテーマなのだなと思います。ただ、学校現場としては、基本的学力の習得も頑張っていますし、教職員の教育力の向上にも本当に時間や努力を割いて行っています。そこはずっと変わらないテーマですが、時代の流れはずいぶん変わってきて、特に今の教育力の向上という点では、自分が昔憧れた教育力の高い教員の先生が見えたのですが、そういう授業名人と言われる方も今形が変わってきています。今はタブレットを上手に使いこなせないと、もう授業名人ではなくなってしまっていて、かつての授業名人の方たちの授業の素晴らしさをもっと生かせないものかなとも思ったりしています。また、令和5年度及び令和6年度のデータを見比べていて、この辺りは頭打ちのデータになってきていて、目標値に100%を目指すのは高いなど、ただ、どうしても教育力の向上なども、働き方改革で時間的制約が出てきて、その中でやれるだけのことは皆さんやっているのだろうなということを感じて、意見を記載させていただきました。

会長：ありがとうございます。教職員の教育力の向上というのは、永遠の課題だと言ってもいいと思います。私は長い間教員養成に関わってまいりました。20年ぐらい前ですが、各国の教員養成の現場や教育の質を見てきて、日本の教員の資質は世界で勝ったって言うても良いくらいかなり高く、良かったと思います。ただし、最近になって感じるのは、特に若手の教員の皆さんが、どうも迷いを持って教育している面が多いのではないかと思います。また、他県では、担任になる教員が足りないという学校の県が結構あります。愛知県は正確には分かりませんが、そういった点では、今後、教員のなり手が少ないということが大きな課題になっているとともに、自信を持って教職を継続していけるということも一つの大きな課題ではないかなと思っています。私もこの施策3の教職員の教育力の向上については、意見を申し上げたわけですが、やはり理想通り100%というのは難しいのが事実でございます。人間には限界もございます。完璧なものというのはなかなかできないですが、お互いに助け合って、相互に補完していくような体制というものが、学校、瀬戸市内全体、あるいは尾張東部全体の中ででき

ると良いと思っています。そこをどこがどのように担うかということは、大変難しい課題だと思いますが、何らかの形で、特に若手の教員の皆さんが、やればやるほど苦勞するのではなくて、楽しくなってくる、やりがいが出てくる、自信が持てるというようになっていくことを望んでいるわけでございます。

委員：いのちを大切にせる教育の推進のところで書かせていただきましたが、「目指す姿」の「自己肯定感や他人を思いやる心、いのちを尊重する心、規範意識が育まれている。」について、真剣に読んでみるとこれが何のことか分からなくなりました。四つともやらないといけないのかなとか、そうするとバラバラのことだよなと思ったときに、22 ページに書かせていただきましたが、本当にシンプルに考えるのは、「あなたのいのちも私のいのちも尊重する。」と、これは絶対に一つしかないと思います。規範だと思います。ところが、今の学校の教育を考えた場合に、多様性という言葉で、人によって正義が変わってしまっています。そこをもう一度振り返らないことには、何ともならないのではないかと思います。私が最後に先生をやっていたときに不安だったのは、道徳の授業で偉い先生が来て見ていたのですが、これで良いですというオープンエンドの授業で、最後どんな意見も取り入れてOKと、これはどう考えても昔のモラルで言ったら間違えているだろうということまでOKしてしまうような授業を見たときに、私は許せませんでした。そんなことを考えたときに、やはり大人がもっとしっかりとした何か一つの、1本の柱というのを持つようなところを、アクションプランの中に入れておくべきではないかということはこの頃学校に足が向かない子が来るオアシス 21 にいて思っております。

もう一つ自分のやったところをもう少し話しますが、27 ページで私が言うよりも、上の三行書かれた方、この人凄いなと思ったのですが、問題ではなくて意思表示なのです。私は「学校行かないって言ったんだよね。あなた偉いよ。」と、子どもたちに言います。だから、そういう子はもうその時点で、私自身は安心する部分も多分にあります。それよりも、今学校の中でそれが言えないで、苦しんでいる子たちを救えるような学校の雰囲気というのを作っていただけると良いのではないかと思います。30 年前に中学校の先生やっているときに、何で悪い子らはトイレの前に集まるのだろうと思ったのですが、でもあそこがあの子たちにとっては、ほっとする居場所だったのだと今気付きます。そんな居場所をみんなのために、先生も子どもたちもここでダラッとできるような場所をハードの面で作っていくような教育方針

の転換というのも良いのではないかと思います。せと“ここ”ほっとルームはその一つの先例になっていると思いますが、学校にそういう場所があることを一つ思っております。

あとは、去年も言ったと思いますが、みつば小学校ができますが、さくらんぼと普通の小学校が別になったとしても、何とか今までのレガシーを守ってほしいと思っています。そこだけは本当に、これから瀬戸市教育委員会の方で力を入れていただいてやっていく、大切なノーマライゼーションのところではないかと思っておりますので、ここで私自身の意見として言わせていただきます。

会長：集団に馴染めない子どもというのはどうしても出てきてしまいます。どこかでそれを救ってあげたい、そういう場が必要かなという気がしますし、それに対して瀬戸市教育委員会や瀬戸市全体がどういう立場でそれに関わっていくのか、各学校にお任せする方法もあるかもしれないですが、そうでない部分もどうしても出てまいります。そこについて、今後、アクションプランを作っていく一つの根拠として、魅力ある瀬戸市、あるいは瀬戸市の教育ということでございますので、そこに向かっていけるような方向性というものを、何らかの形でうまく調和的にできると良いと思っています。どうしても、不登校やいじめというのは何らかの理由があってそうなっていると思いますし、そういう子どもたちに対する手当のようなものを行政として、あるいは教育として、これから作っていかなければならないことが大きな課題ではないかと思っています。

委員：先ほどからお話を聞かせていただいて、いくつか学校からの立場としてお話ししたいと思います。まず、みつば小学校で始まる地域の新しい教科が市全体に広がっていくと良いというお話もありましたが、私は水野小学校にもおりました、それから下品野小学校に赴任したのですが、水野も品野も自然が豊かで、歴史もあって、地域の方の協力もありまして、地域学習をしております。先ほど、町探検のボランティアの話が出ましたが、子どもたちが行きたいところに探検に行くには、担任や学校の職員だけではカバーしきれないので、ボランティアさんに来ていただけるということは、本当にありがたいと思っています。保護者の方に向けて案内を出しますが、お仕事があつてなかなか行けないと言われてしまい、本当に助けていただけるとありがたいなと思っています。お家にいるお母さんですと、小さいお子さんがいる方もいて、小さいお子さんを連れながら暑い中出歩いてい

ただき本当に助かっていますし、来てくださったお母さん方は、子どもの様子が見られて良かったと言ってくさるので、ぜひ親御さんが出ていただけるような会社のご理解があると良いと思っております。また、昨今、イクメンということで、お父さんで育休取られている方もみえますので、そういったお父さんもどんどん来ていただけると、ちょっとやんちゃな男の子がいても、お父さんが「駄目だよ。」と言ってくさったりしていただけると良いかなということも思いました。

子どもたちは自分の地域の良さについて、気が付いていないところもありますので、やはり地域学習は大切だと思えます。地域の行事だと、水野は水野祭がありますし、品野は祇園祭が今週末あるのですが、子どもたちは大変楽しみにしております、祇園祭について地域の方が教えに来てくださったりして、ポスターを書いて宣伝するとか、地域との関わりを持って、子どもたちが地域行事に参加するっていうのが年々増えており、それはとても大事なことだと思っております。

品野におりますと、最近外国籍のお子さんが転入してくることが多く、今年度も既に何家族かいらっしゃっています。来日されてから直接みえる方が多く、日本語指導の先生については、市が対応してくれるので、本当に助かっています。瀬戸市はこれから外国籍の方がより多くなるのではないかと考えております。

会 長：ありがとうございます。私は豊田市の学校に関わっていたことがあるのですが、半数ぐらいが外国籍の方で、外国籍の子どもの扱いの難しさを解消することの困難さ、それから親御さんの考え方が全く異なるということの難しさから、子どもへの教育とともに親御さんへの支援も含めて考えていかないと、外国籍の子どもが上手くいかないのではないかと感じておりました。増えてきているというのは事実だと思えますし、また、減ることはないと思えますので、その対応策を市もご検討いただければと思います。

委 員：子どもたちの成長にとって本物に触れることは大切なことだと思っております。本物に触れたときの目つきや目の輝きは全く変わってくるなと感じております。地域の方をゲストティーチャーとして招いており、以前、民泊をやっている南さんという方に来ていただいて、事業を立ち上げた思いをお話いただきました。また、幡山中学校を卒業されてバスケットボールの実業団に入られた加藤さんに来ていただいて、スポーツを通してどう

いったことを学んだかという話をしていただいたのですが、道を極めた方の話を聞いているときの子どもたちの表情が全く違うなど感じます。地域には様々な才能を持つ方がたくさんお見えになりますので、そういった方にゲストティーチャーとして来ていただいて、授業をやっていくことはとても大事なことで痛感しており、また、地域の方に支えられながら学校というのはあるのだなと実感しております。そういった人材を見つけるのは、学校としては苦勞するところですが、最近はありがたいことにコミュニティスクールの推進員の方が骨を折って探してくださったり、また、地域未来塾という形で地域の方に来ていただいて、小中学生の学習サポートをしていただくのですが、そういった企画をしていただいたりということで、多くの方に支えられながら学校が成り立っているのだなと痛感しております。

子どもたちが健やかに成長していくためには、教員の教育力の向上が大事だと思うのですが、そのために瀬戸のリーダー研修をやっていただき、研修に参加した先生を中心に ICT を活用しながら授業の研究を進めていますが、その先生がリーダー研修で学んだことを教員に広げていくで、学校全体の教育力が少しずつ向上していけるのではないかと考えていますので、こういった機会を有効に活用していきたいと考えております。

会 長：ありがとうございます。ゲストティーチャーとなりうるような方の人材の掘り起こし、そういったことも今後何らかの機会にサポートをいただけると学校側はありがたいのではないかと思います。

委 員：二点お願いがあります。一点目は多文化共生社会ということで、外国籍のお子さんが増えているのですが、本校は外国籍のお子さんが 15 名ほどおりまして、8 割ぐらいがベトナムの子になります。県や市からスペイン語、ポルトガル語及びフィリピン語の補助はしていただけるのですが、ベトナム語に関しては一切なく、保護者とコミュニケーションが取れなかったり、日本に来てすぐ授業を受けるところで、何語も通じない状況で授業をやらなければいけないということがここ数年続いておりまして、現場は大変苦勞している中で、ベトナム語の何か補助を一つしていただくと助かります。電話による通訳のことは聞いているのですが、思うように繋がらず、また、教室で使いたいのですが、私的な携帯電話を使うわけにもいかず、学校には携帯が常備されていないので、何とかならないのかというのが一点目です。

二点目は長寿命化工事です。今年度から来年度にかけて長寿命化工事が決まっていたのですが、未定に変わってしまいました。もうすぐ長寿命化工事ということで我慢してきましたが、施設も古くなっており、先日は3階の教室のエアコンが壊れ、暑い中で授業をやることがあったり、プールの排水が壊れ、1週間入れなかったりするなどしたため、長寿命化工事を進めていただけると大変ありがたいと思います。

会長：瀬戸市だけで抱えるのではなく、愛知県全体での議論にもなってくると思いますので、ぜひ愛知県教育委員会の方にもアプローチをしていただいて、ベトナム語のできる方の派遣要請をお願いしていただくと良いかと思っています。

また、施設の老朽化対策ですが、予算的な問題もあるかと思いますが、子どもの安全に関わる問題でもございます。市長にお願いをしなければいけないかと思いますが、ぜひしっかりと推進していただき、早急に対応をお願いできればと思っています。

委員：今皆様のご意見をお伺いして思ったことは、人だなということです。放課後学級に関しては、子育て世代の方は皆さん働いてみえて、放課後学級にたくさんのお子さんがあるため、学校の施設では足りない状態で、その中で指導員さんがお子さんたちの全てを見ていくというところにすごく大変だなと思いますし、そこで色々な問題が起きてしまうのだなという人の問題であったり、教員の教育力に関しては、産休や育休が取れるようになり、力を付けてきた教員が3年間お休みする、中には2人、3人で10年ぐらいお見えにならない教員がいたり、また、一方で代替りの講師が不足していたりですとか、そういうところで人がいない問題が起きたりしています。また、外国籍の方に関しては、自分も萩山小学校にいましたので、たくさんいました。この前、萩山小学校の広報新聞を見たら、卒業生が外国人サポーターとして名前があって、ものすごく嬉しくて、外国籍の子のためにそういう子がサポーターとして活躍してくれることは、一番理想的な形だなと思いました。先ほどの意思疎通が難しいお子さんの保護者の方の橋渡しになってくれるかもしれないということで、それぞれの人がどんなに頑張っているか、人と人が繋がらないといけません。

ですので、瀬戸市全体でやるとなれば、組織力であったり、マネジメントであったり、人と人とが繋がるということをどうしていくのかというところが、大事な問題であることをこの施策全部を通して思いました。

会 長：大変広範にわたりご意見をいただき、ありがとうございます。

委 員：基本施策はどれをとっても重要なことであってやるべきことなのですが、現在の瀬戸市の状況を見ると、現実として全てを進めるということが難しいのではないかと思います。

今のような急激な気候変動で、5月から熱中症の危険があるようなことは予知してなかったわけですので、学校のエアコン導入もかつてはそれほど議論に上っていなかったと思います。確か豊田市で事故があって、それを契機に普通教室はほぼ100%設置していると思いますが、特別教室は未だに瀬戸市も入っている教室もあれば入っていない教室もあるというのが現状だと思います。体育館については、避難所にもなっているということで、小中学校の体育館のエアコンの導入を進めている状況ですが、今まで想定していなかったけれども、やらなければならないことが後から入ってきて、先ほど委員からあった予定されていたはずの整備が遅れているということがあるのではないのでしょうか。

最初の発言に戻りますが、現実問題として基本施策を進めるに当たって、ある程度何を優先するかを考えざるを得ません。瀬戸市が豊田市や西三河の各市のように財政力が豊かであれば良いですが、そういう状況にはなく、ある程度優先順位を付けて、例えば、ハード重視でいくのか、一例を出せば、先般の議会でも新しい図書館を造るべきじゃないかというような声も出ておりましたが、3,000,000千円かけて図書館を造るということを優先するのか、あるいはそうではなくて、例えば、ソフト事業で、先ほどお話に出ていたような外国籍の方に対する日本語教育に指導員を入れてやろうとすれば、市単独の予算を組んで人を配置しなければいけないと思いますが、そういう形でやっていくのか。分野にしても、学校教育を最重要として考えるのか、社会教育も重要だから学校教育と同等にやっていくのか、そういうところを考えていかないといけないのではないかと思います。そうしないと中途半端な形になって、結局どれも期待した効果が現れずに60点ぐらいの出来で何とか合格というぐらいで終わってしまうのではないのでしょうか。ですから、選択と集中ということが、やはり改めて重視すべきことではないかと思えます。この場合、我慢していただく方の理解が必要ですし、当然反論も出てきます。また、軋轢もあると思いますが、私は現実的な考えをすれば、やはりそういった選択と集中ということをしなないといけないのではないかなと常々思っております。

会 長：ありがとうございます。様々ご意見をいただきましたが、この度提出された評価・報告について原案のとおり承認してよろしいでしょうか。よろしければ拍手をお願いします。

<拍手全員>

会 長：可決承認いただきましたので、この報告書については8月定例教育委員会に上程し、議決後、瀬戸市議会に報告し、公表することとなっています。

3 会長総括意見

吉田会長から今回の報告書に対する総括意見が述べられた。

4 教育長総評

加藤教育長から今回の報告書に対する意見提言へのお礼及び総評が述べられた。